

第255回 キャリア教育のための eラーニングコースの開発と実践

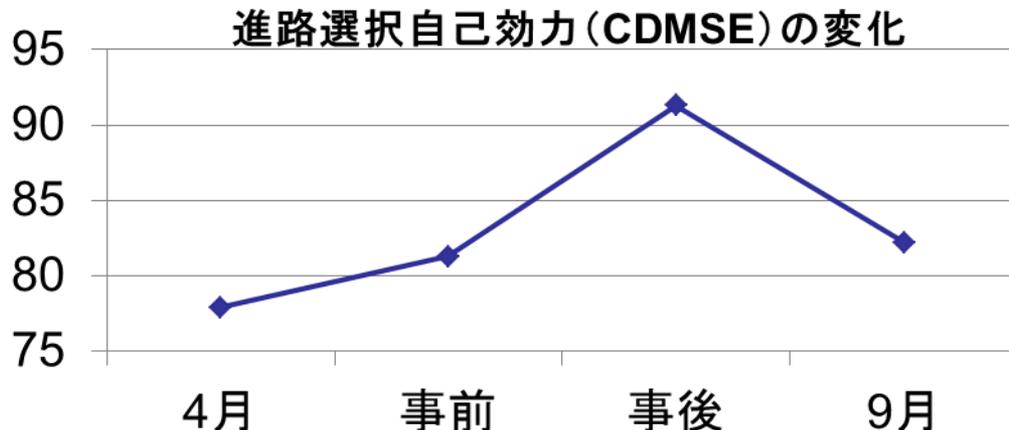
—大学コンソーシアム京都単位互換科目の事例—

- 研究テーマ: 相互評価学習で自己効力アップ!
 - 対面授業での実践 → eラーニングでも同じことをやってみよう
- 大学コンソーシアム京都「e京都ラーニング」 戦略的大学連携事業 → 単位互換事業
- eラーニング科目の設計・開発
 - シラバス、VODコンテンツの作成
- eラーニング科目の実践
 - どんな学生が受講しているか?
 - 志望理由から: 2012年後期、2014年前期
 - 受講時点の進路選択自己効力の特徴
 - 単位修得率の推移
- 今後の課題
 - 授業の進め方、eラーニング科目の更新ができていない
 - 事業全体(この事業の行末は...)



対面授業における実践

- 個人プレゼンテーション(キャリアプラン)の相互評価
 - 対象科目: 2012年度前期キャリア教育科目(選択科目)
 - 対象学生: 短期大学1回生 4クラス92名
 - 評価対象: 1人に対して本人以外の5人が匿名で評価
 - 評価項目: 8項目について5段階のルーブリックを学習者に提示
 - システム: Moodle 2.0xのワークショップモジュール



相互評価学習の実施前後で、進路選択自己効力が有意に上昇
(桑原ほか 2014)

大学コンソーシアム京都 e京都ラーニング

- H20～22年度 文科省戦略的大学連携支援事業
 - 10大学・短期大学と京都市が採択を受けた。
 - 各大学が開講している教養教育科目等を共用化し、大学間連携と効率化をはかることを目的とする。
- 「e京都ラーニング」の開発
 - シラバス、教務管理、受講登録出願システム
...単位互換事業全体に関わる独自のWebアプリとして開発
 - eラーニングシステム(Moodleベース)
 - 科目の開発:90分の授業内容を保証、VODコンテンツが必須
- 事業終了後、単位互換事業へ組み込み(eラーニング科目)
 - H27年度:4大学・2短期大学からVOD13科目、ブレンディッド2科目
 - 「仏教学入門」、「京都学:京都の食文化を知る」、「消費者取引と大学生」
 - 受講者数は694名(阿部・前田 2015)



e京都ラーニング

e京都ラーニング
e-kotolearning

e京都ラーニング (イーことらーにんぐ) は、平成20年度の戦略的大学連携事業において設立され、大学コンソーシアム京都加盟の大学間にてeラーニングシステムを共有化し、さらにコンテンツの共有化を目指して、受講者に最大の教育効果をもたらすことを目的とした、履修登録機能付きのeラーニングシステムです。本システムを介して、新しい単位互換教育や生涯教育の学習スタイルを提供します。

- ◆単位互換詳細・科目一覧 (大学別・曜日別) は [こちら](#)
- ◆シラバスの変更内容等は [こちら](#)
- ◆e京都ラーニングのご利用に当たってのよくある質問は [こちら](#)

e京都ラーニングとは?
(イーことらーにんぐ)

- 初めての方は
利用案内ビデオを視聴ください [参照](#)
- 初めてご利用の方は [こちら](#) [新規登録](#)
- 開講科目一覧をみる [科目一覧](#)
- 当システムの説明を読む [詳細](#)
- パスワードを忘れた方は [こちら](#) [パスワード](#)
- 授業などのお知らせ [お知らせ](#)
- 公開講座など [無料講座](#)

無料講座はこちらです

無料講座の検索結果が表示されています。検索条件: 検索ワード: 検索ボタン

ID:

パスワード:

[ログイン](#)

[学認認証へ](#)

※個人情報 (SSL (128bit) により暗号化して通信いたします。ブラウザのクッキー設定を有効にしてください。)

<https://el.consortium.or.jp/login.php>

e京都ラーニング
e-kotolearning

あなたは [kuwahara.chiyuki](#) 桑原千幸 としてログインしています。学生/教員のどちらの役割か

日本語 (ja)

Home ▶ マイコース ▶ キャリア形成論

トピックアウトライン

- 1 第1回 オリエンテーション〜現代社会とキャリア形成
 - 第1回 オリエンテーション
 - (課題) 自己紹介
 - (アンケート) 進路選択についてのあなたの考え(第1回)
- 2 第2回 キャリアの概念と生涯発達
 - 第2回 キャリアの概念と生涯発達
 - (課題) 30歳の私
- 3 第3回 自分について考える I
 - 第3回 自分について考える I
 - 自分史チェックシート
 - 自己分析シート
 - ジョハリの550の形容詞
 - (課題) 自分史への相互コメント
- 4 第4回 ささまざまな働き方について考える
 - 第4回 ささまざまな働き方
 - (課題) 雇用形態の違いについての私の考え

フォーラムを検索する

検索オプション

最新ニュース

08月13日 22:47
Kuwahara Chiyuki 桑原千幸
キャリア形成論受講生の皆さまへ(附録) [詳細...](#)

07月17日 14:33
Kuwahara Chiyuki 桑原千幸
評定について [詳細...](#)

07月3日 18:32
Kuwahara Chiyuki 桑原千幸
第13回〜第15回のコンテンツを公開しました。 [詳細...](#)

[過去のトピック...](#)

カレンダー

2013年 10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

イベントキー

- ★ グローバル
- ★ コース
- ★ グループ
- ★ ユーザ

シラバス(抜粋)

<p>講義概要</p>	<p>主体的なキャリア形成が求められる社会情勢やキャリアの基本的な概念を学び、自己理解、職業理解を深めることによって職業観を育む。また、将来の目標や夢を実現するために何をすべきかというキャリアデザインを行っていく。</p> <p>VOD講義視聴の他に、掲示板での相互コメントや提出課題の相互評価学習といったオンラインの協調活動を通じて、他の大学・短期大学に所属する受講者と意見を交わし、多様な価値観に触れることによって自己理解の深化をめざす。単に講義を聞くだけでなく、自分の考えを文章や口頭で表現し、授業に積極的に取り組む姿勢を求める。</p>
<p>到達目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) キャリア形成が求められる社会情勢と、さまざまな職業や多様な働き方について理解することで自らの職業観を確立する。 2) 自己理解を深め、口頭または文章で自分の考えを表現することができるようになる。 3) 夢や目標の実現のためにこれから何をすべきかを考えて計画し、行動することができるようになる。
<p>対象年次</p>	<p>2年次以下</p>
<p>授業定員</p>	<p>40名</p>
<p>評価方法</p>	<p>各回のタスク・小テスト／レポート試験</p>

VODコンテンツの作成

分類	作業内容	自分で	業者依頼
授業設計	学習目標, 評価方法, ターゲットとする学習者像の設定	○	
	シラバスの作成	○	
	講義企画書の作成	○	
事前準備	講義の原稿, プレゼンテーション用PowerPointの作成	○	
	著作権処理	○	
	補助教材の作成	○	
撮影・収録	撮影準備	○	
	撮影収録	○	
	収録した動画の確認	○	
編集	PowerPointスライドをコンテンツ用に加工・編集	○	
	タイトル用画像ファイルの作成		○
	動画カット編集	○	
	タイミング合わせ		○
	コンテンツオーサリング		○
	小テスト問題の作成	○	
	完成したコンテンツの確認		○
	コンテンツのシステムへの登録		○
	登録したコンテンツの最終確認	○	

コンテンツ制作環境

- 撮影: PowerRec MV (Photron社)
 - DVI(2系統), Video(1系統)の入力映像ソースとPicture(画像)の4つを合成し, ひとつの映像として収録
 - カメラ設置教室にて、教員1名で撮影可能
- 編集: Power Contents Maker
 - 動画を再生確認しながらのカット編集
 - WMVファイルの再出力
- オーサリングツール: Camtasia Studio 7



作成したVODコンテンツの例

CamtasiaでPowerPointと
同期したコンテンツ

PowerRec MVで撮影し、
Camtasiaでメニューのみを
追加したコンテンツ

京都文教短期大学

スーパーのキャリア発達理論③

- ライフ・キャリアの考え方
 - キャリア：職業を含むさまざまな役割の組み合わせ
 - 人生の各段階におけるライフロール（人生の役割）がある
 - 「子供」「学生」「余暇を過ごす人」「市民」「労働者」「家庭人」...
 - 役割を演じる場(arena)：
 - 家庭，学校，地域社会，職場

どの役割をどの比重で果たすかは，個人の価値観や社会環境的要因によって決まる。

若年層の失業率の推移

失業者数(万人) / 失業率(%)

年	全体 (万人)	15~24歳 (万人)	25~34歳 (万人)
1980	100	80	20
1982	120	100	20
1984	140	120	20
1986	160	140	20
1988	150	130	20
1990	140	120	20
1992	150	130	20
1994	180	160	20
1996	210	190	20
1998	250	230	20
2000	300	280	20
2002	320	300	20
2004	300	280	20
2006	250	230	20
2008	200	180	20
2010	300	280	20

出典：総務省「労働力調査」より作成

eラーニング科目の実践

- 個人プレゼンテーション(キャリアプラン)の相互コメント
 - 対象科目:2012年度～
大学コンソーシアム京都単位互換科目「キャリア形成論」
 - 評価対象:自分以外の3人に対して**実名でコメント**, 割り当てなし
 - システム:Moodle のフォーラムモジュール
 - 評価項目(参考):6項目5段階のルーブリックを学習者に提示



eラーニング科目：授業の流れ

回	回タイトル	タスク	足場かけ
第1回	オリエンテーション ～現代社会とキャリア形成	掲示板：自己紹介の投稿	教員の自己紹介動画 自己紹介すべてにコメントを返す
第2回	キャリアの概念と生涯発達	掲示板：投稿&返信1件以上	掲示板でのディスカッション におけるトピック投稿&他者 へのコメントを義務付けること により、受講者同士の交流 をはかる。
第3回	自分について考えるⅠ～自分史による自己理解	掲示板：自分史シート提出 &返信1件以上	
第4回	さまざまな働き方について考える	掲示板：投稿&返信1件以上	
第5回	ライフサイクルとキャリア1	掲示板：投稿&返信1件以上	
第6回	ライフサイクルとキャリア2	掲示板：投稿&返信1件以上	
第7回	若年者のキャリアに関する諸問題	掲示板：投稿&返信1件以上	
第8回	職業理解～業界・職種について	掲示板：企業紹介&コメント	
第9回	自分について考えるⅡ～価値観・職業観	掲示板：投稿&返信1件以上	
第10回	社会人に求められる能力	掲示板：投稿のみ	
第11回	キャリアの転機を考えるケーススタディ	掲示板：投稿&返信1件以上	
第12回	自分について考えるⅢ～キャリア・アンカー	掲示板：投稿のみ	
第13回	自分について考えるⅣ～夢・目標、10年後の私	ワークシートの作成	
第14回	相互評価	キャリアプラン（初版）のアップ &相互コメント3件以上	
第15回	相互評価の振り返りとまとめ	キャリアプラン（最終版）の提出	



受講生の志望理由分析(1)

- 2012年度後期(桑原 2014)
 - 6大学16学部から36名が受講
 - 2回生15名, 3回生7名, 4回生以上14名
 - 男子24名, 女子12名
- 出願票の志望理由の記述内容分析

2年次以下対象科目
だが、6割以上が
3回生以上

志望理由	件数
自己理解	12
他大学の受講者との意見交換	12
将来計画・キャリアデザインを行う	11
授業内容への関心	7
自分の考えを表現する力の獲得	5
夢・目標の明確化	5
VOD科目であること	4
社会人への準備	4
就職活動に役立つ	2
職業観	2
職業理解	2
その他	5

受講生はシラバスの講義概
要と到達目標を参考に志望
理由を記述している



受講生の志望理由分析(2)

- 2014年度前期(桑原ほか 2015)
 - 8大学19学部の2~5回生 56名
 - 2回生7名, 3回生20名, 4回生以上29名
 - 男子40名, 女子16名
- 出願票の志望理由の計量テキスト分析
 - フリーソフトウェアのKH Coderで分析
 - 一名の志望理由を一つの文書単位としてデータのクリーニングを施した。強制抽出語の検討には, 「TermExtract」を利用。



進路選択自己効力の特徴 (ICoME 2013で発表)

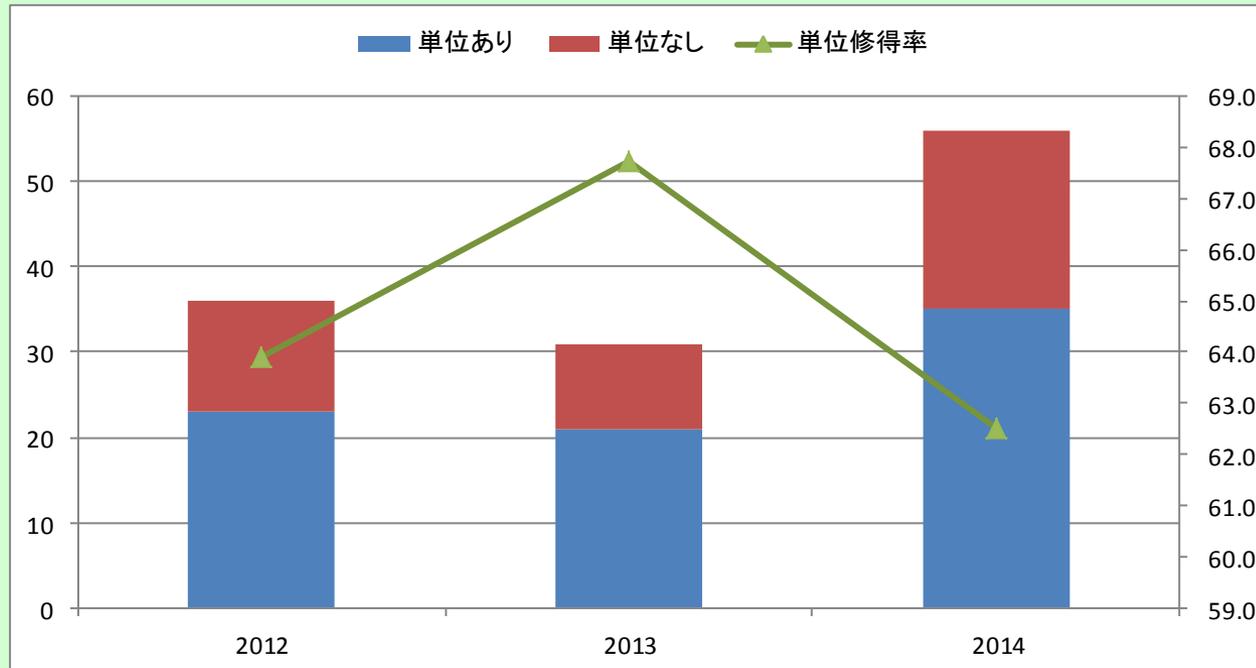
• 授業開始時の進路選択自己効力の比較 (2012後期)

	対面授業 (N=65)	e-learning (N=21)
Average (SD)	77.19 (11.05)	90.29 (10.77)

- 進路選択自己効力の全国平均は78.78 (SD 14.95)点
(「大学生のキャリア意識調査2007」大学1/3年生2013名)
- 対面授業の受講生は特に自己効力が高いわけではない。
- 進路選択自己効力の高い学生が、eラーニングのキャリア教育科目を受講している。
- 自己効力の高い学生は、より積極的に進路選択行動を遂行する。



単位修得率



cf.) H22年度VOD科目
10科目合計の単位修得
率は71.4% (阿部ほか
2012)

- Moodleの学習履歴データから(2012)
 - 単位を修得しなかった13名は,1回のみ課題を提出して以降は受講していない,もしくは1度も課題を提出していない



今後の課題(授業の進め方)

- 非同期eラーニングにおける問題点
 - 学習者毎の進度が異なる
 - Moodleのワークショップモジュールは使えない
 - 評価割り当て, タイミングの問題

【受講生の意見】

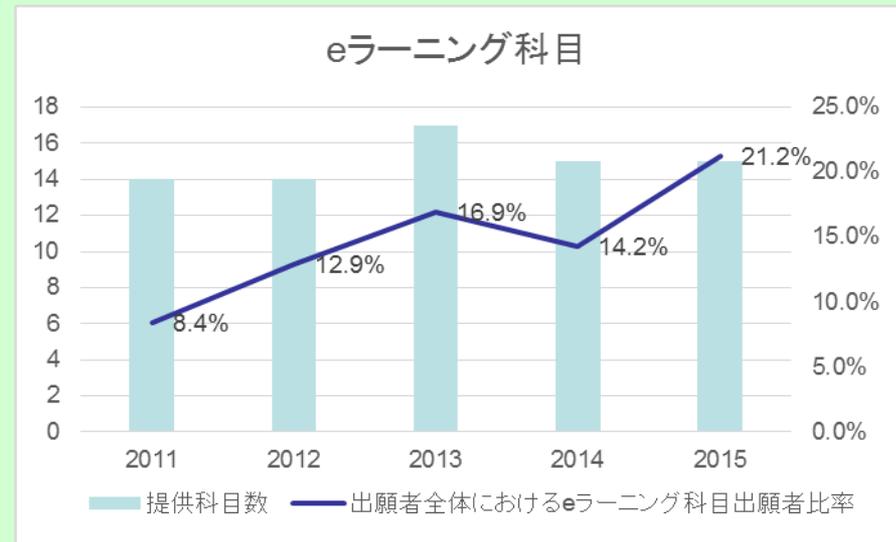
- 同じ世代の人でも考え方が大きく異なる点が多々あった。
- 他者の考えや価値観を感じる事が出来てよかったですと思います。
- タイミングが悪いのか, コメントしづらい内容だったのか分かりませんが, あまりコメントがもらえなかったのが少し残念に思えました。
- ネットでの授業だとどうしても進度が違うので, 何人かの人たちはもうすぐ最終回というところで最初の授業の課題をしている人が一定数出てきてしまうというのが現状です。私としては同じ時期におなじ話題についてコメントしあいたかったと感じました。



今後の課題(事業全体)

- システムを稼働するサーバ類は導入後6年超経過し、機器の更新が必要 → コスト削減策、仮想化

- 単位互換事業全体に占めるeラーニング科目受講者の比率は上昇傾向
(阿部・前田 2015)



- しかし、諸事情でeラーニング科目は廃止の方向へ...



参考文献

- 阿部 一晴・前田 昭吾(2015)大学コンソーシアム京都単位互換eラーニングプラットフォームの更新検討. 教育システム情報学会 第40回全国大会発表論文集, 207-208
- 阿部一晴・渡邊 康晴・桑原千幸・辻健司(2012)大学コンソーシアム京都単位互換制度におけるe-learningの取り組み. PCカンファレンス2012論文集, pp.325-328
- 桑原千幸・喜多敏博・合田美子・鈴木克明(2015)eラーニングキャリア教育科目の受講生の特性分析. 教育システム情報学会第40回全国大会講演論文集, pp.231-232
- 桑原千幸・喜多敏博・合田美子・根本淳子・鈴木克明(2014)初年次キャリア教育科目における相互評価学習の実践と進路選択自己効力の向上. 日本教育工学会論文誌, 38巻2号, pp.79-89
- 桑原千幸(2014)キャリア教育のためのeラーニングコースの開発と課題. 京都文教短期大学研究紀要, 第52集, pp.45-56
- Kuwahara, C., Kita, T., Goda, Y., & Suzuki, K. (2013) A Case of an Asynchronous E-learning Course in Undergraduate Career Education toward Enhancement of Self-efficacy. *A paper presented at ICoME 2013*, Nihon Fukushi University, Japan
- 大学コンソーシアム京都 単位互換事業
http://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/about/

